

掲載にあたって

金 富子

2010年12月6日に本学において、〈ジェンダーをめぐる暴力の諸相〉科研（代表：栗屋利江）主催「パトリシア・ビサー・セラーズ講演会 武力紛争下の性暴力—国際法の視点から—（Sexual Violence under Armed Conflict: From the perspective of international law）」と題する講演会が開かれた。以下はその講演録である。パトリシア・ビサー・セラーズ（Patricia Viseur Sellers）は、旧ユーゴスラヴィア・ルワンダ国際刑事法廷のジェンダー犯罪法律顧問として国際的に著名であり、2000年12月東京で開かれた「日本軍性奴隷制を裁く女性国際戦犯法廷」では首席検事を務めた。現在は、オックスフォード大学ケロッグ・カレッジ客員上級専任教員である。国際法から

見た性暴力、性的拷問や性奴隷制に関する数々の著作がある。なお前日に本学アゴラ・グローバルで開かれた「女性国際戦犯法廷から10年国際シンポジウム」でも講演を行っている。本公演会は、学生・教員、市民も含め200人以上が参集したなかで、セラーズ教授による1時間以上にわたる講演、梁鉉娥教授（やん・ひよな、ソウル大学法学部、法女性学）によるコメント、学生との間に活発な質疑応答がなされた。専門的立場から訳語等の校閲は前田朗教授（東京造形大学、国際法）が行った。誌面を借りて感謝します。

（きむ ぶじゃ・東京外国語大学大学院総合国際学研究院）